

「船橋の教育2020-船橋市教育振興基本計画(後期基本計画)-」
に対する主な意見・対応一覧

資料③

No	意見	該当 ページ	修正内容または修正しない理由	対応課
1	成果指標の「現状」のところに「（評価時期）」みたいに記載した方が理解しやすいかもしれない。	全体	全ての成果指標の現状に「（評価年度）」と表記した。	事務局
2	学ぶ意欲を育てるという題があったが(基本方針3)、学ぶ意欲を刺激するとか、学ぶ意欲を向上させるとかいうことは言うけれども、学ぶ意欲って育てるという言葉は今使うのか。	20	文部科学省による中央教育審議会の報告の中にも、「学ぶ意欲や知的好奇心を育て、「確かな学力」を育成すること・・・」との表記もあることから、この表現に問題はないと考える。	指導課
3	生涯学習社会ということに対する説明は書かれているが、生涯学習自体の説明がない。生涯学習自体の説明を書いておくべきでは。	34	脚注を追加した。	社会教育課
4	スポーツに「親しめる」機会の充実という文言に違和感を覚えた。スポーツを「楽しむ」機会じゃないのか。	38	令和4年(2022年)3月第三次船橋市生涯スポーツ推進計画にて、「スポーツに親しめる機会の充実」という施策を掲げており、スポーツ庁においても、第3期スポーツ基本計画(2022年3月策定)にてスポーツに親しめる「場づくり」の提供という施策を掲げていることから、問題はないと考える。	生涯スポーツ課
5	市民大学校について、57ページのアンケート「学びの成果を自分以外のために活かしたいか」について、18歳から49歳の方達の50～60%がそういう機会があったらいいと回答している。ただ、日中学校へ行っていたり仕事をしていたりで、出たくても出られない世代が多いと感じる。ここをターゲットに市民大学のカリキュラムを検討するとかしてもいいのではないか。	57・60	幅広く様々な方が参加できるようにカリキュラム等の検討をしており、それも含め59ページの説明文の最後に「生涯学び活躍できる環境づくりを行っています。」と記載している。	社会教育課
6	「地域学校協働活動推進員」について、注釈(脚注)を付けてほしい	61	脚注を追加した。	青少年課
7	「基本方針2家庭と地域の教育力向上を図ります-推進目標2子育て支援と家庭の教育力の向上」に、家庭内での食育に関する研修などを反映していったらいいなと思う	65	家庭教育支援として、食育(アレルギーなど)も含め、障害、発育、運動、健康など子育ての悩みとなる様々な内容について関係機関(地域、学校、児童ホーム、子育て支援センター等)と連携して、子育ての悩みや不安の解消につながる事業を展開していく。	公民館

8	アレルギーのお話とかもあったが、保育園であればそういった栄養士もいるし、子育て支援もやっているというところもあるので、公民館として保育園との連携というのをここに入れてもいいと思う。	66	事務事業概要に「福祉部門やその他関係機関と連携し」という文言を追記した。	公民館
9	2段落目1行目、「わかる喜びや達成感を感じる授業」という表現の「達成感を感じる」は「達成感を味わう」等の言葉のほうがいいのではないか。	67	「達成感を味わう」に修正した。	指導課
10	国語を中心に各教科においても言語活動の推進について言われているので、積極的に「言語活動」の文言を入れていってもいいのではないか。	72	能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、言語活動を通して資質・能力を育成する。」と示されている。授業改善に向けた言語活動の工夫は必須であり、国語教育を充実させるための柱ではある。そのような考えのもとに国語教育においては、さまざまな言語活動が行われているが、その中でも特に求められているのが、読書活動の改善と充実であると考えている。以上のことから、言語活動は国語教育の充実のための柱という考えの元、具体的な取組として読書活動の振興を図っていくという考えから読書に係る内容が中心になっているため、改めて文言には入れていない。	指導課
11	2行目の「教科横断的な学習」は学習指導要領だと「教科等横断的な学習」になると思うので、等を入れたほうがいいのではないか。	78	「教科等横断的な学習」に修正した。	指導課
12	自然体験活動が急にここ出てきた理由がよくわからない。文言を精査してもいいのではないか。	82	文章の構成を見直し、修正した。	指導課
13	指標が学級活動における話し合い活動となっているが、それぞれの教科の授業の中でも対話というのが非常に大切になっていて、他の教科も含めて指標をたててはどうか。	84	事務事業名を、「各教科等の学習における話し合い活動の充実」に修正した。	指導課
14	67Pの保護者アンケートの結果でインターネット、SNSにおける情報モラルを高める教育が上位にきていて、保護者の方が求めていることがわかるものであることからアンケート参照としたほうがいいのではないか。	85	アンケートを参照した文章に修正した。	指導課
15	情報に関する教育は、学校だけで行うものではなく保護者も一緒に行うものであり、学校だけで行うと聞こえる文言になっているのが気になる。	85	「保護者と情報を共有することで、安全かつ適切に情報を活用することができるよう努めます」という文言を記載した。	指導課

16	スクールソーシャルワーカーのほうの満足度に関するアンケートとあるが、何のアンケートなのかを分かるようにしてはどうか。	87	成果指標名を「派遣申請を受理している学校を対象にした満足度等に関するアンケート」に修正した。	指導課
17	楽器貸与事業の割合は学校の数なのか楽器の数なのかを分かりやすくしてはどうか。	88	成果指標を「希望した学校のうち貸与した学校の割合」に修正した。	指導課
18	部活の地域移行化が進んでいく中、申請学校数が増えていくという指標でいいのか。スポーツについても同様。	89	地域移行のことを考えてしまうと施策そのものもいいのか疑問が出てくる。申請学校数を目標とすることも疑問が持たれるが、補助金を交付することで文化クラブの活動を支えているという観点から、現状の事務事業・成果指標で差し支えないと考える。	指導課・保健体育課
19	本文3行目の「機能的特性」とは何か分かりにくいので、注釈を入れてはどうか。	91	脚注を追加した。	保健体育課
20	体力向上委員会が教育委員会の中にあるのかと思ってしまうので、「各学校の」と入れた方が分かりやすいのではないかな。	92	「各学校の」を追記した。	保健体育課
21	「ここ数年」という表記は5年間の計画のため、いつなのか分からないため不要ではないかな。	92	「ここ数年」を削除した。	保健体育課
22	部活動指導員と外部指導者がいるが、外部指導者だけ記載しているが部活動指導員を記載するかどうか。	93	部活動指導員は県の事業のため記載はしない。	保健体育課
23	成果指標の学校保健委員会の実施率というのが、何回やったのかなのか全部の学校なのかとかが分かりづらいのではないかな。	94	(各校年間1回)という説明を追記した。	保健体育課
24	食材を通して、ふるさと船橋への思いを育む(船橋を愛する)等の文言を入れられたらいいのではないかな。	95	「食材を通して「ふるさと船橋」への思いを育みます」という文章を追加した。	保健体育課
25	満足度というのは何のことを言っているかという注釈を入れることで分かりやすくなるのではないかな。	96	脚注を追加した。	総合教育センター
26	本文の2行目、初若年教職員は「初若年層」ではないか。23ページでは「若年層教員」となっているので、文言をそろえたほうが良いかな。	97	P23、P97共に「初若年層」に統一した。	総合教育センター

27	本文3行目には、「千葉県・千葉市教員等育成指標」及び「千葉県教職員研修体系」を踏まえた、とあるので、事務事業の表の概要の冒頭も2つにそろえたほうが良いのではないか。	97	事務事業の概要も本文の表記に合わせ修正した。	総合教育センター
28	現状の課題、施策の内容のあたりに、スクール・サポート・スタッフ、スクールアシスタントについて触れても良いのではないか。	99	スクールアシスタントは校務の見直しという点から配置したものではないためここで触れなくてよいと考える。	学務課
29	事務事業名の「窓口の充実」と、成果指標の「要請訪問」がつながりにくいのではないか。	100	事務事業名を「 <u>体制</u> の充実」に修正した。	学務課
30	「就学相談の充実」の成果指標について、他の成果指標では、「アンケートの満足度」という記載があり、アンケートを取るのであれば、他の箇所も含めて表記を統一したほうが良い。	101	「アンケート」を追記した。	教育支援室
31	現状100%のものを5年間かけて同じ現状を維持するということをやわざわざ目標に掲げなくても良いのではないか。一方で100%を必ず継続しなければならないという性質のものもあるのではないか。他の部会にも関わることなので再度、取扱いについて確認する。	101	達成度が100%となったとしても、推進目標を達成するためには翌年度以降も100%を目指す必要があることから、同じ目標としている。	全所属
32	成果指標「巡回相談員の派遣回数」について、要望に対する実施率とすることも検討してみてもどうか。	103	要望があった学校については、前期又は後期どちらかで実施できており、実施率は考えにくいいため、現状の成果指標のままとする。	教育支援室
33	成果指標のサポートルームには「第2」が入っていないくて、本文の4行目には「令和6年度に第2サポートルーム」と、いきなり出てきている。 第1サポートルーム、分かりやすく注釈をつけるなどして分かりやすく説明すべき。「令和6年度に第2サポートルーム」の前に、何年度に第1サポートルーム、令和6年度に第2サポートルームというように記載すれば分かりやすいか。	105	成果指標は、第1と第2を合わせて、サポートルームと記載している。 また、脚注に第1サポートルームについての説明を追記した。	教育支援室
34	不登校生徒だけではなく、未然防止のため学級に入りづらい児童生徒の居場所にもということで部屋を造っているので、成果指標で「不登校児童生徒のうち、」と限定してしまっているのか。 また、限定しないとしても、不登校児童生徒と学級に入りづらい児童生徒なのか内訳が分からないので併せてしまっているのか。	106	目標が不登校児童生徒への支援の充実であるため、不登校の児童生徒に限定している。実際には不登校の児童生徒以外も利用している。	指導課

35	成果指標の現状についての吹き出し説明で、「令和5年度末に割合を出した上で」とあるが、小学校は令和6年度から始まったので、中学校は5年度で別々に現状値を持ってくるのか、双方6年度とするのか。	106	小・中共に令和6年度の数値に合わせる。	指導課
36	3段落目のところ、ワールドルームの設置は「19年度」、オンラインのほうは「令和3年」となっているが、年度なのか、年なのか、統一を検討してはどうか	107	「年度」に統一した。	指導課
37	本文の表現で「児童又は生徒」、「児童生徒」とあるが、原案全体で統一してはどうか。	108	「児童生徒」に統一した。	学務課
38	事務事業名が「体育館外壁・屋根改修工事」、事業事務概要と指標は「体育館の屋根・外壁」となっているので「外壁・屋根」に統一したい。	109	「外壁・屋根」に統一した。	施設課
39	原案作成時にはなかった宮本中の北校舎も建替の設計を今年度実施していく。今後改築が増えていくが、そうしたものも追加していくべきなのか、記載のルールを確認する必要がある。 後期の計画の途中で完了するようなものをあえて掲載する必要があるのか。	109	掲載する必要があると考えるため、事務事業「海神中の北東校舎改築工事」は削除した。	施設課
40	本文冒頭の「市立小・中・特別支援・高等学校」という表記、他のページには高等学校が入っていないかかったりしているが、違いがないならそろえたほうが良いので確認が必要である。	109	他のページも「市立小・中・特別支援・高等学校」に統一した。	全所属
41	推進目標として「安全・安心・快適」となっているので、体育館への空調設置も事務事業のところに記載してはどうか。 (海神中建替えも含め、短期的に完了するするようなものは、あえて掲載する必要はないか、計画全体で統一的な考え方を要確認)	109	短期間で完了する事業なので、本計画には掲載しない。	施設課

42	109ページ、学校施設の老朽化対策と、この110ページの社教施設の事務事業の概要の表現について、体育館外壁・屋根改修工事の方は、「改修を実施することにより・・・長寿命化を図る」、社教施設は「長寿化を図るため改修等を行う」、読みやすさの観点から統一してはどうか。	110	社会教育課の文言に統一した。	施設課
43	成果指標だけを見ると、何か会議の参加率でいいのというか、そういう印象を受けてしまわないか、参加率を高めて意見交換を充実させていく、という1番の趣旨のところがどこかに含まれるといいのではないか。	111	すべての事業に理由を記載することになってしまうため、記載しない。	防犯安全対策室
44	1行目の「FAX配信」について、文科省で、令和6年度中に学校のファクスを全部廃止するというのが出ていて、今年度中に、何か動きがあれば、この文言は修正する必要があるが出てくる可能性がある。	112	「FAX配信等」に修正した。	防犯安全対策室
45	3行目、「就学時検診」は、健康の「健」でしょうか。	112	「就学時健診」に修正した。	防犯安全対策室
46		113	「基本方針8-推進目標3-施策1 情報活用能力を高める教育環境の充実」について、後期基本計画期間中に本市の1人1台端末の更新を迎えるにあたり、端末の利活用の促進や、そのために必要な整備等を内容とする公立学校情報機器整備事業計画を策定・公表することが補助金交付要件となることが国から示されたため、文章全体を修正した。	総合教育センター
47	接続の研修は年に1回か2回だけであり、それで接続が図れているというところは、ちょっと弱いので成果指標の再検討が必要なのではないか。 例えば、幼稚園、保育園の子どもたちに来てもらったりとか、先生たちと一緒に引継ぎを行ったりとか、そういうことの推進を図っていくほうがいいのではないか。	114	成果指標を再検討し、「幼稚園等との子供同士の交流活動を行った小学校の割合」及び「スタートカリキュラム」を作成・実施した小学校の割合」を新たに成果指標として追加した。	総合教育センター
48	本文に「スタートカリキュラム」とあるが、一般の方には分かりづらいと思うので、注釈などが必要ではないか。	114	脚注を追加した。	総合教育センター
49	文章3行目に、「義務教育段階である小・中学校においては」とあるが、対象は小中学校だけということによいか、特別支援学校を入れるかどうか確認。	115	「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」に基づいた施策であり、当該基本方針では特別支援学校は対象となっていないため、ここには記載しない。	教育総務課

50	令和3年の新設と5年の統合の話が載っているが、これだけを見ると、新設や総合がどんどん進むのかと捉えてしまわないか。学区の見直し等の記載も検討してはどうか。	115	学区の見直しを追記した。	教育総務課
51	最終段落、今年度から全校でコミュニティスクール導入されている。もう導入されて1年経つ頃にこの計画が出るので、もうはっきりと実施方法をこうするなどということを決めていかなければならない段階なので、この文言はもう要らないか。	116	コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の「導入による」を「活用した」に修正した。	指導課
52	「研究を進めていきます」という文言について、指標のところにも、「学校運営の改善」という言葉もあり、施策題名にも「学校運営の改善」というような言葉もあるので、「改善を図っていく」という文言のほうがいいのではないか。	116	成果指標を変更したため、「研究を進めていきます」のままとする。	指導課
53	成果指標の「改善率」とは、何ををもって改善というのがちょっと分かりづらい。どうなったら改善したのか数字で表すのは難しいと感じた。	116	成果指標を、「学校評価で学校運営の改善について肯定的に回答した学校の割合」に修正した。	指導課
54	令和5から7で研究に取り組みますという表現がどうなのか気になった。 また表の中で、「研究指定校を指定し」は、「研究校を指定し」としたほうが良いか。 事務事業名には研究推進校の指定とあるので、「研究推進校を指定し」となるのか確認が必要。	117	「令和5から7で研究に取り組む」は削除した。 事務事業名を「研究学校の指定」に修正した。	指導課
55	成果指標の中1ギャップに関する解消率というのはどういうことなのか、何ををもって87.5%なのか、わかりづらい。	117	「学校に行くのは楽しいか」といったアンケートで数値を出しているが、今年度と来年度はアンケートの肯定的回答率の増減をとることを指標としたいと考えている。	指導課
56	1行目、市立船橋高等学校の表記について、他に市立高等学校という記載もあったので文言の統一が必要。 全校生徒1人1台端末が今年度、確立されたというのは相当な売りになると思うので、記載したほうがよい。 国際教養コースの新設のところでも、グローバルリーダー、卒業後に特化してグローバルな視点において、リーダー的存在になるような教育、もしくは留学含めて、かなり市とのつながりの中で生徒が海外のアメリカ、オーストラリア、中国含めて経験ができ、その中から、人材を育成していこうというのが、強く、色濃く出ているので、その辺も盛り込んでほしい。	117	市立高等学校は、「小・中・特別支援・高等学校」のように併記する際にそのような表記をしているが、ここでは高等学校単独の表記であり、施策名を「市立船橋高等学校」としていることから、文章も「市立船橋高等学校」と表記している。 1人1台端末、国際教養コースの新設についての文章を追記した。	市立高校

57	α コースというコースの進展について、今カリキュラムの変換、見直しをして、変更をかけていくというようなこともやっている。進路実現に向けた α コースというのは、一般受験で難関大学に合格していこうというような目標を持った生徒たちに向けたコースになるので、そこら辺の充実についても記載してもらいたい。	117	α コースについての文章を追加した。	市立高校
----	--	-----	---------------------------	------